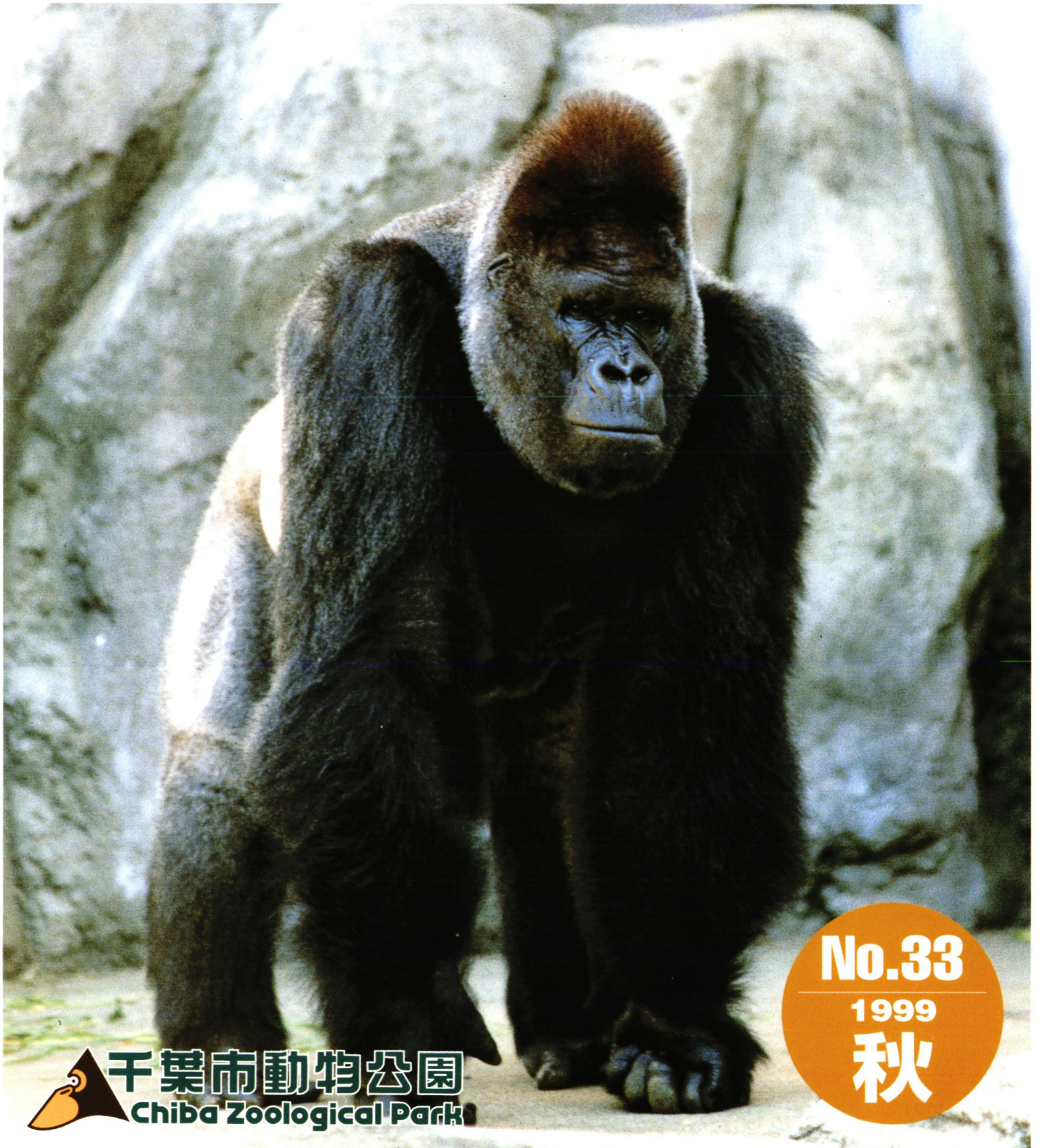


どうぶつこうえん ニュース



No.33

1999

秋

 千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

Topics

トピックス

アカハナグマ

食肉目 アライグマ科

アカハナグマは南アメリカに生息するアライグマ科の動物です。よく動く長い鼻と、縞模様のある長い尾に特徴があり、他のアライグマ科の種と違い日中に活動することが多く、樹上でも活発に行動する動物です。

当園では、1995年に千葉市と姉妹都市である南米パラグアイのアスンシオン市より、雄1頭、雌1頭が寄贈され、小動物ゾーンで展示を始めました。

このアカハナグマは、雄は交尾期以外は単独行動していて、雌と子供は2～15頭の群れを作り行動しています。雄と雌との行動パターン、生活パターンが非常に異なっているので、長い間、彼らは全く違った種だと考えられ、生物学者を混乱させていた時代もあったそうです。

アカハナグマは雑食性で、いろいろな物を食べます。子ゾウのような長い鼻は、45度にも曲がりその鼻を自由に使いこなし地面につけ、餌の臭いを嗅ぎ回り、強力な前足と長い爪を使って、甲虫やその幼虫、アリ、サソリ、カニなどを掘り出して食べます。時には、カエルやトカゲ、ネズミを捕まえたり、カメやトカゲの卵を掘り出して食べたりもします。当園では、鶏頭、煮芋、煮人参、ゆで卵、パン、リンゴ、ドックフードなどを与えており、中でも鶏頭、ゆで卵は大好物です。

昔、南アメリカでは、アカハナグマを飼っている家



も多くあったそうで、利口で愛想がよく、人によく慣れペットにもなりやすいと言われています。特に子供の頃は、母親に甘えている姿、子供たちで遊んでいる姿は、1日中見ていても飽きない程です。子供は普通2～5頭産まれ、体長15cm、体重100～180gあり、親に比べて体色が濃いです。1ヶ月程は巣からあまり出ず、40～50日で巣からよく出て木に登ったり、走り回ったりします。当園でも来園した翌年には、最初の出産があり、その年より現在まで3度の出産、7頭の子供が生まれています。日中に活発に動き回っているの、走り回る姿や、穴を掘る姿をご覧頂けると幸いです。

古谷 保生 (Yasuo Furuya)

目次

CONTENTS

表紙【ニシローランドゴリラ】	①
トピックス【アカハナグマ】	②
特集1【動物公園で見られる野鳥たち】	③
特集2【サマースクール】	④
こどもどうぶつえんへようこそ	⑤
動物公園の動物②【フクロテナガザル】	⑥
飼育よもやま話【前略、ハゲコウ様】	
動物公園日誌から【'99.4/1～'99.6/30】	⑦
編集後記	
裏表紙【カンムリバト】	⑧

表紙の動物説明 ニシローランドゴリラ

ゴリラの仲間は、標高3000mもあるビルンガ火山帯のみに限局して生息する黒くて長い毛のマウンテンゴリラと、ビルンガ火山帯に隣接したザイル東部に生息するヒガシローランドゴリラ及びナイジェリア、カメルーン、ガボン、コンゴなどアフリカの西部に生息するニシローランドゴリラの3亜種に分けられます。

世界の動物園で飼育されているゴリラのほとんどはニシローランドゴリラで、日本の動物園で飼育されているゴリラも、現在はすべてニシローランドゴリラです。雄18頭、雌18頭、計36頭が15園で飼育されていますが、最近では全く繁殖しておらず、日本動物園水族館協会のゴリラ繁殖検討委員会が中心となって、新たな群れづくりをして繁殖に取り組んでいます。

また野生のニシローランドゴリラは40,000頭ぐらい生息しているだろうと推測されていますが詳しくはわからず、今後の調査と厳重な保護が望まれます。

秦 舜二 (Shunji Hata)

動物飼育数

平成11年7月末現在
Classified number of animals
as of 31.Jul.1999

哺乳類	67種 370点	両生類	1種 1点
鳥類	84種 372点	魚類	2種 17点
爬虫類	5種 22点	総計	159種 782点

特集 1

Special 1

動物公園で見られる野鳥たち

シジュウカラ

1985年の開園以来、動物公園で観察された野鳥は60種類以上になるそうです。こういった鳥の中には、過去にただ1回迷ってきただけといった鳥も含まれますから、ある1年を取り出してみると、観察できる種類数は30種前後といったところかもしれません。

鳥にとって巣造りの季節である初夏には、動物公園でもいくつかの種類が巣造りします。シジュウカラは、白と灰色の体に黒い帽子、黒いネクタイをしたおしゃれな色合いの小鳥ですが、木のうろや巣箱で巣造りします。また、エナガは小さい体に長くまっすぐな尾をもった小鳥ですが、コケなどをつかってボール状の巣を作ります。コゲラは、スズメくらいのおおきさしかないキツツキですが、枯れ木に穴を掘って子育てします。5〜7月にはこれらの鳥たちが、家族で園内の木々を、餌をとりながら移動してゆくのに出会うことが多くなります。いかにも子供こどもした巣立ちピナたちの仕草を観察するのはほほえましいものです。なお、巣造りする鳥のなかにはシジュウカラのように、巣の内装に獣の毛を使うものもありますから、園内で飼育されている動物から毛を失敬するシーンに出会うこともあるかもしれません。

夏になると鳥たちは子育ても終わり、換羽といって体の羽を生えかわらせるので、外敵に襲われないようにおとなしく過ごすようになり、動物公園でもセミの声ばかりが聞こえるようになります。

キーイ、キーイ、キーイキーイというモズの高鳴きが秋をつげるのと前後して、本州の山地で生まれたコサメビタキやセンダイムシクイといった小鳥たちが旅の途中に動物公園をひっそりと通過してゆくのに出会うこともあるかもしれません。彼等は秋に日本を離れて、冬越しのために東南アジアに

渡って行くのです。翌年の春になるまで彼等に会うことはありません。

秋が深まるにつれて、あるものは本州の山地や北海道から、別のものはサハリンや千島、カムチャッカやシベリアから、冬鳥たちが冬を越しに動物公園にやってきはじめます。ウグイスといえば春に庭先にやってきてホーホケキョとさえずる鳥というイメージがあるかも知れませんが、動物公園はもちろんのこと、関東地方の平野部では10月末に現れて冬中観察することができます。動物公園の植え込みの下の暗い地上には、トラツグミ、シロハラ、アカハラといったツグミの仲間たちが、餌をもとめて、木の葉をひっくり返しているのを観察できるでしょう。トラツグミとアカハラは本州の山地や北海道で夏に巣造りする鳥ですが、シロハラはロシアから渡ってきて日本で冬を越すのです。大池にも、北国からマガモ、ハシビロガモといったカモたちがやってきて冬のあいだ羽を休めています。冬の大池はカモたちが集まるのでバードウォッチングに適しています。

春になってカモたちが北へ帰っても動物公園に残るカモもいます。カルガモはただ1種、関東地方の低地に残って子育てするカモです。ツバメが戻り、木々ではシジュウカラが、池ではカルガモが巣造りするようになると、動物公園にふたたび初夏がめぐってきます。

山階鳥類研究所 平岡 考 (Takashi Hiraoka)

ハシビロガモ

特集
2
Special 2

第15回

サマ〜スク〜ル Summer School

平成11年7月21日(水)〜23日(金)



まずは獣舎のお掃除から



ゾウさん、こ〜んなに食べるの！



これはバクさんの餌、手を切らないでね



みんなで食べるカレー(昼食)は美味しいね



クギをまっすぐ打って難しい



ツノにも色々あるんだね



ペンギンさん上手に作れたね



ネズミさんって何kg？、kgじゃなくてgだよ。



初めてゴリラ放飼場に入った感想は…

こどもどうぶつえんへようこそ

Welcome to Children's Zoo

～子ども動物園での動物体験学習 ②～

コンタクトエリアでの動物体験学習について

コンタクトエリアにはヤギ、ヒツジ、アヒル、ガチョウが放し飼いにされており、来園者は自由に入って動物たちとふれあうことができます。またニワトリ（チャボ、ウコッケイなど）も展示しています。

コンタクトエリアでの動物体験学習は主にヤギ・ヒツジ班とトリ班に分かれて行なっています。

ヤギ・ヒツジ班はヤギ・ヒツジの飼育の仕事を体験します。まず、ヤギ・ヒツジが夜すごす部屋の掃除をします。子供たちが部屋に入るとボロ（フンや尿など混ったワラ）が床



いっぱい、臭いで鼻をつまむ子供もいます。子供たちはスコップをもちそのボロを一輪車に次々と積み、ゴミ捨て場に運びます。次にデッキブラシで床の汚れをゴシゴシこすり、水で流してきれいにし、水切りワイパーで床の水分が

残らないようにします。床が乾くまで、日中ヤギ・ヒツジたちがいる放飼場にて、コロコロのウンチをちり取りとホウ

キで掃除します。最後に寝床となるワラを広くしきつめ、その上に夕方食べる乾草と青草（牧草）を用意します。これらの飼育作業が終わると、青草を少しずつもち、ヤギとヒツジに食べさせます。子供たちは大喜びです。

トリ班はニワトリ、アヒル、ガチョウを対象とします。ニワトリの成鳥とヒヨコの違い、ニワトリとアヒルの違いを実際に触って確かめます。たいていの子はヒヨコはすぐ触れますが、ニワトリやアヒルはこわがってすぐに触れない子もありますが、すぐに触れるようになります。また、ニワトリ、アヒル、ガチョウのために菜っぱ（小松菜）を包丁でみじん切りにし、他の材料と混ぜて餌を作ります。そのときに餌の説明をします。また聴診器を使ってヒヨコ、ニワトリ、マウス、ヒト（子供たち）の心音の聴きくらべをすることもあります。

林 まさ代 (Masayo Hayashi)

小動物コーナー日誌より

- 1時間も同じモルモットを抱き続けている子がいました。（3月16日）
- 大きなニワトリのオス（ピヨちゃんという名前）を見た女の子、「名前がかわいいのにでかすぎるニワトリね。」（4月16日）
- ヒヨコを抱いていた3才くらいの子、お母さんに「これ、ワシになる？」するとお母さん、「うーん・・・なるかもね。」（4月17日）
- モルモットがウンチしているところを見ていた4才くらいの子、「たまご生んで！」（5月28日）
- ウサギのヒマワリ（子ども動物園で一番太っているウサギ）に、「ダイエットしなよ。…なーんて言ってもわからないか。」と小学校4年生くらいの男の子が声をかけていました。（6月6日）

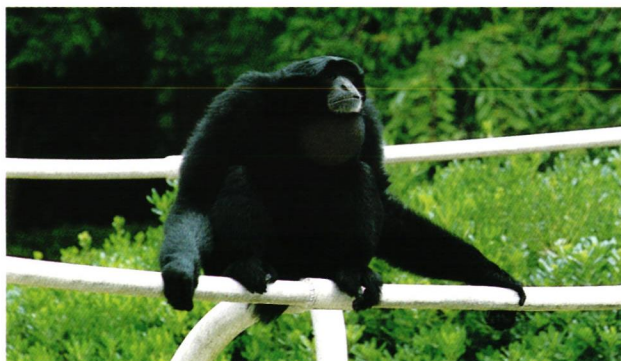




動物公園の動物…②5

The animals in the Chiba Zoological Park

フクロテナガザル



今回紹介するフクロテナガザルは、霊長目、ヒト上科、テナガザル科に属し、テナガザルの仲間では最も大きく、体重は8～13kg、口から顎にかけて白い毛が生えている部分を除き、全身が黒く長い毛で覆われています。インドネシアのスマトラ島およびマレー半島の熱帯雨林に住んでいます。

雄と雌のペアは、年中行動を共にし、おもに朝方木から木へ飛び移ったり、枝をかけ登ったりと即興的な行動をしながら、共鳴袋を膨らませて歌うような叫び声を出してデュエットします。その声は数km先まで聞こえ、隣接した他のペアに対する縄張り防衛の機能だけでなく、夫婦の絆を強め、持続させる面も兼ねていると言われています。人に近いという動物とあって、互いの信頼関係には常日頃からの共同作業が有効という事でしょうか。

また、立ち上がっても地面に着く程の太くて長い手は、枝にぶら下がる反動と力強い腕力で、素早く枝から枝へと進む「腕渡り」という移動を可能にしました。当園のフクロテナガザル舎は、モンキーゾーンの一角にあり、放飼場には、ひょうたんの形に近い1周50mぐらいの鉄パイプのレールを設置していますが、前述したペアのデュエットが最高潮に達した時にレールを利用して行う腕渡りは、見ている人に思わず「オウオー、スゴイ！」と言葉を発しさせ、賞賛の拍手をさせるほどです。そして、「アンコール、アンコール…」の合唱になる事が度々あります。さて野生の生活では、夫婦に1～2頭の子供の家族で暮らしています。子供は1歳まで母親が、1歳以上になると父親が主に日常的な世話をします。3歳頃までには独立しますが、両親の縄張りの中で暮らします。そして8歳頃に配偶者を見つけて親の縄張りから出ていきます。

現在、彼等の住む熱帯雨林は開発が著しく、生息数も減少しています。熱帯雨林は伐採よりも保護するほうが、経済的側面だけでも人類により大きな恵みをもたらすだろうと言われる今日、現地の人々の生活、文化を尊重した保護活動が待たれています。

佐藤 幹雄 (Mikio Sato)



飼育よもやま話

Keeper's Episode

「前略、ハゲコウ様」

あなたが、当園に来園してから、今年で11年目になります。よく晴れた日も雨の日も風の強い日も、自然と共にあなたは生きていますね。きっと、いろいろな事があったのでしょう。あなたの姿には時折、哀愁が漂っていますよ。冬が近付く季節は特に感じます。そう、あなたはアフリカの人、いやアフリカの鳥です。名前はアフリカハゲコウと呼ばれています。アフリカといえば暖かい国でしょうね。日本の冬はあなたにとって辛いはず、「さあ、寒くなってきたから暖かい部屋へ移ろう。春になるまではお客さんとお別れだね。」と私はあなたに近寄るとあなたは、「わたしを捕まえて御覧なさい。」なんて言いませんが、結局私の胸にそっと抱かれ、いやいやながら暖かい部屋に移ります。そんなあなたはいつも気まぐれで、私を悩ませます。あなたの大好きな鶏頭と小アジの入ったバケツを手にとって、「餌を持って来たよ。」といったもののように、あなたにあげたのです。きっと喜んで食べると思ったのに、しかし、あ

あなたは遠くへ逃げてしまい、私は何だかとても切ないです。こんな時、あなたは餌をあまり食べません。「ダイエット中かい。いっぱい食べた方がいいよ。体にこたえるよ。」と心配している私をよそに、あなたは意外に頑固で餌を残します。そんな日々が続いたある日の事です。お互いの距離が縮まったような感じがしたので、もしかしたらと思い、餌をあげたのです。そし

て、あなたはパクパクと勢いよく、全部餌を食べたのです。私はお客さんが見ているにもかかわらず、空高く拳を突き上げて「ヨッシャー。」と大胆になり、今思えば私らしくない態度で、あなたを驚かせたことでしょうね。あの時はとても嬉しく、心が躍ってしまったのです。こんな私ではありますが、これからもよろしくお願いします。



千葉 茂 (Shigeru Chiba)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'99年4月1日～'99年6月30日

- 4月 1日 アフリカハゲコウ、暖かくなってきたため、草原ゾーンで展示開始
- 4月 6日 写真家 原氏、動物の視点からの風景撮影のため打ち合わせで来園
- 4月 8日 ショウガラゴ（1頭）繁殖
- 4月 9日 トナカイ（雌）発角
- 4月11日 コサンケイ（3羽）人工孵化
- 4月15日 子ども動物園内小動物コーナー、撮影取材あり（テレビ東京）
- 4月19日 成田動物検疫所の担当官2名、飼育実習（24日まで）
- 4月25日 「ワンポイントウォッチング」開催（フラミンゴ）（講師 飼育課 清田）
- 5月 9日 「羊の毛刈り」開催
（講師 ナチュラリスト 田中 克彦 氏）



- 5月10日 アミメキリン（雌2）とハートマンヤマシマウマ（雌2）で、本日より同居展示
- 5月11日 カリフォルニアアシカ（雌 キトラ）、餌付けのため、親から分け予備プールに移動
- 5月12日 オオカンガルー（雌 コルシー）、化膿性肺炎で死亡
- 5月14日 第106回関東東北ブロック動物園技術者研究会に横山出席（盛岡市動物公園にて）
- 5月16日 「愛鳥週間特別講演会」開催
ー動物公園で見られる野鳥たちー
（講師 山階鳥類研究所 平岡 考氏）



- 5月18日 東京都恩賜上野動物園飼育課長他3名、視察のため、来園
- 5月23日 「ワンポイントウォッチング」開催（アジアサイギュー）（講師 飼育課 牧野係長）
- 5月24日 ウマ、ロバに日本脳炎予防接種
- 5月25日 ルリコノハドリ（雄3、雌3）、動物交換で新着
- 5月27日 ゲルディモンキー（雌1）、肝不全で死亡
- 5月30日 「ゆかいな森の音楽会」開催（演奏 千葉市管弦楽団）
- 6月 5日 シロガオマーモセット（雌1）繁殖用貸与で南房パラダイスへ搬出
- 6月12日 「アニマルスクール」開催
ーウマの飼育体験ー（講師 飼育課 濱田）



- 6月15日 カリフォルニアアシカ（雌2）、繁殖制限のため、予備プールに分ける
- 6月21日 猛禽類、キジ類、ヤケイ類、ニワトリ類、ニューカッスル予防接種実施
- 6月23日 中学生職場訪問（千葉市立川戸中学校、5名）
- 6月27日 「ワンポイントウォッチング」開催（フタユビナマケモノ）（講師 飼育課 水上）

小林 正典 （Masanori Kobayashi）

編集後記

前回のどうぶつこうえんニュース第32号での『動物公園の植物』の記事中、上から11行目の「雄花序は本年枝の先から垂れ下がり、…」と、12行目の「雄花の花柱は2個、…」と、13行目の「雄花序は花のあとにのびて…」の雄花は雌花の誤り（印刷ミス）であったことをお詫びいたします。どうぶつこうえんニュース次回発行予定は平成11年12月1日です。

（白井 剛）

